

平成28年度第1回大和町総合教育会議 議事録

1 開催日時 平成29年1月31日(火) 午前10時から午前11時16分

2 開催場所 庁舎201会議室

3 議 題

(1) 平成28年度の主な事業進捗状況について

(2) 平成29年度の主な事業(案)について

4 出席者

浅野町長、上野教育長、菊地教育長職務代理者、佐藤委員、若生委員、鎌田委員

5 会議に出席した事務局職員

総務課長、同総務法令係長、教育総務課長、同課長補佐、生涯学習課長

6 傍聴者 1名

7 会議の概要 以下のとおり

総務課長：ただいまより平成28年度第1回大和町総合教育会議を開会させていただきます。開会にあたりまして、浅野町長より挨拶を申し上げます。

町長：おはようございます。平成28年度第1回総合教育会議を開催いたしましたところ、皆様方にはお忙しい中、お集まり頂き御礼を申し上げますし、日頃より町に対してのご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

この総合教育会議につきましては、会議運営要綱により進めさせていただきますが、議題は「平成28年度の主な事業進捗状況について」と「平成29年度の主な事業(案)について」ということです。要綱では町長が議長となって進めることとなっておりますが、意見交換ということから総務課長が進行して進めさせていただきます。以上です。よろしくお願いします。

総務課長：それでは先ほど町長からありましたが、意見交換ということで私のほうで進行役を務めさせていただきます。議題(1)平成28年度の主な事業進捗状況について、教育総務課長、生涯学習課長から説明申し上げます。

(1) 平成28年度の主な事業進捗状況について

教育総務課長：(資料に基づき説明)

生涯学習課長：(資料に基づき説明)

総務課長：続いて説明をしてから意見交換をしたいと思いますので、(2)平成29年度の主な事業(案)について説明申し上げます。

(2) 平成29年度の主な事業(案)について

教育総務課長：(資料に基づき説明)

生涯学習課長：(資料に基づき説明)

総務課長：続いて意見交換に移っていききたいと思います。総合教育会議は協議・調整と位置づけられ、幅広く自由な意見交換を行うこととされております。初めに(1)平成28年度の主な事業進捗状況についてお願いします。

町長：このことは皆さん十分ご承知のことと思います。私も事業に参加して、教育長から報告を受けてますので改めてここでということもないような感じがしますが、大和町は、子どもの多い学校とそうでない学校があり、平等にしたいと考えておりますが、全体として、皆さんどう考えておられますか。

菊地：当初の計画に対して細かく進めているが、途中経過を次年度の事業計画に活かすようにしていただきたいと思います。

特に土曜学習まほろば塾の会場、回数を増やすということだが、もう少し裾野を広げて、塾にいけない子どもたちに啓蒙を図って拡大していただきたい。学年を3年生よりも下げて検討していただきたい。

学校訪問に行っていて感心していることが、支援の方が一生懸命やっているので大変素晴らしいと思う。

主な事業で、確かな学びプロジェクトとか大きい括りでやっているが、具体的にしたほうが分かりやすい。

教育総務課長：土曜学習は、今年度1会場でまほろばホールで実施した。募集の時期が少し遅かったと思いますので、早めに打合せできればと思います。

学び支援コーディネーター配置事業は、サマースクールに塾講師の先生もいれたいと考えております。

鎌田委員：関連で、今年度はほとんどが大和中学校の生徒だったということで、会場を2つにするということで進歩があるんですが、広報啓発活動をどのようにしていくかということが大事だし、生徒だけではなく保護者にもお知らせし、それによって家庭内でも話ができると思います。ただチラシを配って申し込みを受け付けるという消極的なことではなくて啓発活動を行っていくことが大事だと思います。

教育総務課長：はい、お知らせすることは大事だと思いますので、参考にしてまいりたいと思います。

佐藤委員：私がスタッフとして関わりのある、家庭教育サロンについて、受講されている方は元から大和町民というよりは他から来た方が、子育てされるお母さん方が何かを求めているのが感じられました。ボランティアさんが活動しているのを見ていつかは自分も活動したいと思っていただけているようで、事業としては、喜ばしい状況となっています。大和町は出生率も上がっていて、こういった支援でもよそから注目されるような牽引できるようなシステムを作っていきたいというスタッフとして関わっている私の感想です。

社会教育課長：育成講座につきましても、去年15名の受講があり、10名の方が修了証をいただいたということで、増やしていただいております、ありがとうございます。サポートの方が託児により評判がよくなっており、今後ともよろしくお願いします。

鎌田委員：新規事業も受講生が少ないなど効果がなければ、予算が削られてしまうので、今年の実績を分析して、次年度に繋げてもらえればと思います。

林間教育を小規模校だけに限っているという理由はあるのでしょうか。

教育総務課長：大規模校だと全体の動きがとりにくく、小規模校だとうまく動きがとりやすいので小規模校から始めることとしました。

上野教育長：補足しますが、素晴らしい施設が町にあるということで、小規模校の活性化ということで町長の挨拶にありましたが、特色のある教育、大和町のように自然があり、素晴らしい文化が根付いている地域がある。その活性化の一つとしてあのような施設を使って教育をしてるんだという、まずは小規模校を使って行った。将来的には、他の学校との交流など、たくさん子どもたちが小規模校に集まる機会を与えていきたいと考えております。

また、まほろば塾の広報活動ということで、菊地委員と鎌田委員のご意見に共感できるのですが、町としては高い志を持った子どもたちに色々な機会を与えたいという一つとしてのまほろば塾という考えでありますのでご理解をいただきたいと

思います。宮床地区の生徒には事前にアンケート調査を行った結果、「杜の丘の南部コミュニティセンター」、「まほろばホール」、「どちらでもいい」に分かれました。これからまた調査は必要と思いますが、門戸は最大に開きますので、南部コミセンもまほろばホールもそれぞれ20回2教室を目いっぱい使えるように計画している。最大の効果を期待しております。

若生委員：林間教室は、学年だけでなく1クラス、2クラスに分けて実施してもいいのではないのでしょうか。また、委員会で難波分校、嘉太神分校を一度見学して、こういうところで学んでいるというのを委員さんからも言ってもらえると、学校としても役立つと思います。サマースクール、ウィンタースクールは強制ではない。これは人数を確保してもらいたい。半強制的という言い方は良くないが、せっかくだいい先生を呼んでいるので理解してもらえないのではないのでしょうか。もう少し強い文書にすれば増えるのではないかと思います。

また、スポーツ少年団からも言われますが、グラウンドの土が悪いようなので考えていただきたい。

鎌田委員：関連して、グラウンドに鉄柱が立っていて、事故にはなっていないが、危ないので保護していただきたい。

体育施設が指定管理となり、色々な自主事業が行われ、非常にいい面があると思いますので、ぜひ進めていってください。

青少年のふるさと体験事業のベガ号に参加者が50名ということで、これくらいの参加人数がいるのであれば、冬でもいいので、可能であるならば複数回検討していただければと思います。

生涯学習課長：グラウンドは、砂を補っているが、どうしても風で飛ばされる。

若生委員：砂だけでなく黒土を入れてもらえれば改善されると思います。

生涯学習課長：鉄柱カバー、黒土の件は、ミズノスポーツと調整してみます。

ベガ号は、人気があり難しいと思いますが、もう一度公民館の職員と話をさせていただきます。

教育総務課長：林間教育については、若生委員の意見をいただき、有効に利用できるよう考えていきます。難波校舎と嘉太神校舎を見学できる機会を設けたいと思います。

サマースクール、ウィンタースクールは、参加していない人にどうしたら参加してもらえるか考えたいと思います。

上野教育長：大規模校になるほどスケジュールが組まれていて難しい面があります。過去にはP T Aの皆さんが、そりを作って升沢の船形スキー場に持って行って子どもたちが遊んだということもあったので、P T Aや地域の活動にも活かしていければいいので、これから色々なお話ができればいいなと思っているのでよろしくお願いします。

総務課長：(1) 平成28年度の主な事業進捗状況について意見をいただきましたが、町長からコメントがございましたらお願いします。

浅野町長：周知P Rについて工夫して、できるだけ多くの人に参加してもらう方法が必要と思います。

総務課長：それでは、先ほどの意見の中にも平成29年度事業に関するご意見もありましたが改めて(2) 平成29年度の主な事業(案)について皆さまからご意見ありましたをお願いします。

菊地委員：不登校の生徒がほかと比べて多いかなと思う。スクールソーシャルワーカーが1名でカバーすることになるが増員できるのでしょうか。

教育総務課長：県の委託事業で、補助をもらっているものです。県では、ある程度落ち着いたという声もあるが、町の現状を見ると、必要と思います。1人の方に2人分くらい働いてもらっていますので、増員も必要ですがすぐというわけではなく、平成29年度は1人と考えております。

上野教育長：各学校に町当局の配慮で各学校に教育相談員を配置している。県からスクールカウンセラーを3名、そのほかにスクールソーシャルワーカーがいるので、他の町からは大和町は多いといわれている。スクールソーシャルワーカーの資格者自体多くない状況です。

佐藤委員：サマースクールのアンケート結果についてお話があったが、ある意味違う環境で学びたいとの思いがあるのかと思う。逆に吉岡の人が南部コミセンを選べるのですか。

上野教育長：送迎は保護者の責任になるのですが、事前調査ですので、そこまでまだ決めていないので、そこまで含めて検討したいと思います。

佐藤委員：塾でも違う環境で学ぶということもあるので、どちらでもいいということもありなのかなと思いました。

上野教育長：教育委員会の願いとしては、志を高くした子どもたちに機会を与えたいというものでありますのでご理解願いたいと思います。

総務課長：ほかにございせんか。

各委員及び教育長：（なしの声あり）

総務課長：なければ町長のほうからお話ありましたらお願いします。

浅野町長：今回、ユメセンという事業が言葉では分かりづらいですが、ビデオを見ると非常に分かりやすいので、是非やってあげたいと思いました。子どもたちの思いを育てたい、夢を与えたいという人が登録されている。これはベガルタ仙台の人がサッカーに限らずですが、得意なもので前もって準備をして、全国の学校に出向いて授業するというもので、教育長にお話して取り入れてもらいました。これは委員さんにも機会があったら是非見ていただきたいと思います。

総務課長：議題につきまして皆さまからご意見をいただき、ありがとうございました。そのほか皆さんから特になければ議題は閉じさせていただきたいと思います。

それでは、閉会の挨拶を上野教育長からお願いします。

上野教育長：本日は、総合教育会議において私たちの声を聞いていただきありがとうございました。また、教育委員会の事業に対し日頃からご理解をいただき感謝申し上げます。今後も教育委員さんからのご助言をいただき、町当局と協力を図り、事業を推進してまいりたいと思いますので、ご協力をお願いします。

総務課長：以上をもちまして、平成28年度第1回大和町総合教育会議を終了させていただきます。ありがとうございました。

以上